



福岡県水素拠点化推進協議会の設立および総会開催について

本市は、2050年ゼロカーボンシティを宣言するとともに、2030年度までに温室効果ガスを47%以上削減（2013年度比）する目標を掲げ、「環境と経済の好循環」の実現を目指しています。今後、市内に集積する産業のカーボンニュートラル化を推進し、競争力を強化していくためには、再生可能エネルギーの導入に加えて、電化が困難な熱需要等に水素の供給・利活用を地域の特性に応じて推進することが必要です。

そこで、産学官が一体となって地域の将来像を検討し、北九州市響灘臨海部を中心とした水素拠点の形成及びサプライチェーンの構築を目指すため、「福岡県水素拠点化推進協議会」を設立し、総会を開催します。ご取材いただきますようお願いします。

記

1 福岡県水素拠点化推進協議会の概要について

(1) 目的

北九州市響灘臨海部を中心とした水素の大規模な供給・利活用拠点を形成し、国際競争力のある水素の商用サプライチェーンを構築する。

(2) 協議会への参画メンバー（約30社・機関）

■役員（案）

- 会 長：服部 誠太郎（福岡県知事）
- 副会長：武内 和久（北九州市長）
- 副会長：穂山 泰治（九州電力(株)取締役常務執行役員）
- 副会長：木下 貴夫（西部ガス(株)取締役常務執行役員）
- 副会長：中田 昌宏（日本製鉄(株)常務執行役員九州製鉄所長）
- 顧 問：佐藤 直樹（福岡県水素グリーン成長戦略会議会長）

■会員（案）

北九州市響灘臨海部を中心とした水素の供給・利用等に係る拠点形成及びサプライチェーン構築を推進する企業

※ 国（九州地方整備局、九州経済産業局）、九州大学、福岡市経済観光文化局がオブザーバー参加

2 総会の開催について

日時：令和5年5月11日（木）9:30-11:00

場所：リーガロイヤルホテル小倉 4階ロイヤルホール（小倉北区浅野2-14-2）

次第：役員挨拶、趣旨説明、経産省講演、意見交換（※非公開）、写真撮影（役員）

総会終了後、福岡県知事・北九州市長の取材の時間（10分程度）を設けます。

【問合せ先】北九州市環境局 グリーン成長推進課
担当：福田、渡辺（TEL：093-582-2286）

北九州市の水素社会実現に向けた取組

1 北九州水素タウン（平成22～26年度、平成30年度～）

八幡東区東田地区では、まちなかに敷設した約1.2kmの水素パイプラインを活用し、水素ビジネスに乗り出す企業等の実証を支援しています。

【実証事例】

- 水素パイプラインによる未付臭水素の供給
- 水素に含まれる不純物をリアルタイムで検知できる装置の開発
- 水素センサーの開発
- 国内初！水素100%燃焼水素給湯器実証（令和5年4月24日プレスリリース）
等



2 CO2フリー水素製造・供給実証事業（令和2～4年度）

若松区響灘地区では、令和2～4年度にかけて、再エネ由来のCO2フリー水素をつくり、はこび、つかうといった一連のサプライチェーンを低コストで構築する環境省事業に取り組みました。若松区響灘地区に集積する太陽光発電・風力発電、市内の廃棄物発電について、余剰となった再エネ由来電力を効率よく使用するエネルギーマネジメントシステムを開発しました。

【事業者】

- 北九州パワー、IHI、福岡酸素、ENEOS

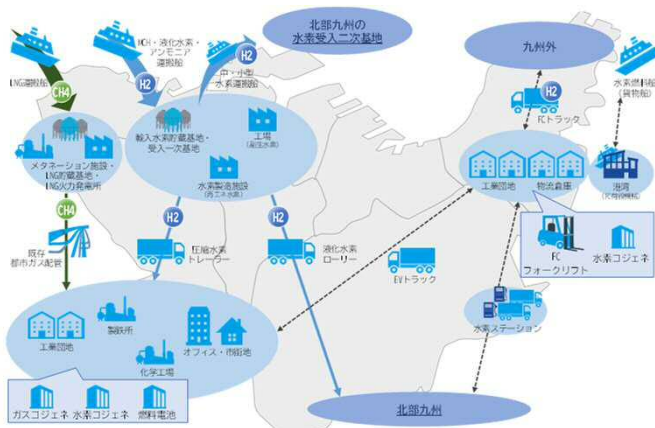


3 北九州市グリーン成長戦略 【水素供給・利活用拠点都市】

経済性の高い水素を供給するための供給側と、水素利活用を促す需要側の両面から実証等に取り組みます。

- 水素や合成メタンの製造、海外から経済性の高い水素の輸入などの国際サプライチェーンの形成
- 電化が困難な分野における水素や合成メタンなどを活用した産業の脱炭素化と経済性の高い水素供給による更なる産業の集積

2050年のイメージ図



2030年に向けたアクションプラン

- 水素利活用の拡大に向けた連携体制の構築
➢ 「福岡県水素拠点化推進協議会」設立
- 水素供給体制の構築に向けた実証・検討
➢ 既存インフラを活用した供給実証 (e-methane)
➢ 将来の大規模な水素供給に向けた検討
- 水素需要喚起に向けた検討
➢ 市内水素を活用した水素の需要喚起とマッチング